

"the whole truth, and nothing but the truth about Jesus"

THE DAILY JESUS NEWS

An ATJ Ministries Publication by John Wright

デイリージーザスニュース #004

イエスの神としての永遠の存在

ダビデとダニエルは受肉前のイエスが神の王であり祭司であるというビジョンを
見る

詩篇 110.1-2, 4; ダニエル書 7.13-14; マルコ 15.61-62

=====

ダビデの証人：詩篇110篇1-2節、4節

主は私の主にこう言われました。

「私の右に座りなさい
敵を作るまで
あなたの足のための足台。」

2 主はシオンからあなたの力強い杖を伸ばしてこう言われる。

「敵の真ん中で支配せよ！」

4 主は誓われた

そして彼は考えを変えないだろう。

「あなたは永遠に祭司です。

メルキゼデクの位に従え。」 (NIV)

預言者ダニエルの受肉前のイエスの「人の子」としてのビジョン

ダニエル書7.13-14; マルコ15.61-62

13 「わたしは夜の幻を見ていると、人の子のような者が天の雲に乗ってわたしの前に現れた。彼は老いたる者のところに近づき、その御前に導かれた。

14 彼には権威と栄光と主権が与えられ、あらゆる国とあらゆる言語の民が彼を拝んだ。彼の主権は永遠の主権であって、滅びることがなく、彼の王国は滅びることがない。(NIV)

**裁判でイエスは、ダビデとダニエルが夢で見た人物であると主張する
MK 15.61-62 (並行テキスト: MT 26.63-64)**

61 大祭司は彼に言った。「生ける神にかけて誓います。あなたは救世主ですか、神の子ですか、祝福された方ですか。」

62 「わたしはある」とイエスは言った。「*あなたの言うとおりだ。あなたたち全員に言います。将来、あなたたちは人の子(ダニエル書 7:13)が全能者の右に座り(詩篇 110:1)、天の雲に乗って来るのを見るでしょう。*」(ダニエル書 7:13)

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = MT、マーク = M、ルーク = L、ジョン = J、使徒行伝 = A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書の書を識別します。さらに、*赤い斜体はイエスの言葉を示します*。旧約聖書からの引用は大文字で表記されます。

コンテキストダイジェスト	
位置	エルサレム(ダビデ)とバビロン(ダニエル)
時間	紀元前10世紀(ダビデ)と紀元前5世紀(ダニエル)
の生涯の段階	ステージ 1: 神としての永遠の前世
第1章	イエスの永遠の存在
セクション #004	ダビデとダニエルは受肉前のイエスの幻を見る

今日の朗読は、イエスが神として永遠に存在していたことを記述した福音書と旧約聖書の資料を完結するものです。量は少ないですが、イエスの生涯に関する聖書の物語の残りの部分を理解するために重要です。

この朗読は、受肉前のイエスに関する旧約聖書の2つの幻、すなわち王であり預言者でもあったダビデと、預言者ダニエルによる幻を組み合わせたものです。これらを複合朗読として取り上げたのは、イエスが、その生涯で最も重要な宣言の1つで、これら2つの幻が同時にイエスを指していると明確に述べたためです。また、イエスは宣教活動を通じて、特にダニエル書の「人の子」の箇所、これら2つの幻を個別に言及しました。DAILY JESUS NEWSでイエスの生涯を時系列で辿っていくと、これらの幻を何度も目にすることになります。

まず、詩篇110章にある、救世主の神の統治権に関するダビデの驚くべき告白について考えてみましょう。受肉前のイエスに関するダビデの「ビジョン」の正確な内容はわかりません。サムエル記下7章から、神がダビデに、彼の子孫（「息子」）の1人が永遠の王国の永遠の王になるという啓示を与えたことがわかっています。当然のことながら、この啓示はダビデを圧倒しました。彼は啞然としました。それは、彼の子孫の1人が宇宙の王として永遠に生きることを意味していたのです。したがって、この「息子」（子孫）はダビデ自身よりもはるかに優れており、神でさえあることになります。

詩篇110章は、IIサムエル7章の啓示の後に書かれ、主（ここでは父なる神、YHWH）と「私の主」（救世主、イエス）との会話を聞くという記述が含まれています。これは、受肉前のイエスをダビデが「見た」ものでした。

イエスは詩篇110章1節を何度も引用し、受難週の火曜日にパリサイ人や律法学者を困惑させるためにそれを持ち出しました。イエスはこの引用とそれに関する質問で彼らを完全に黙らせ、彼らは公の場で二度とイエスに話しかけませんでした。ヘブル人への手紙は詩篇110章4節を3回引用し、イエスがメルキゼデクの位階における永遠の大祭司であることを示す重要な証拠としています（ヘブル5章6節、7章17、21節）。詩篇110節は、ダビデが「主」と呼んだメシアの永遠の統治を信じていたことを示しています。それは、彼がイエスを見た「幻」の中で三位一体が語るのを聞いたからです。

ダニエルの「人の子」が永遠の王国と絶対的な権威を握るというビジョンは、ダビデのビジョンの拡大版でした。この一節に基づいて、イエスは福音書の中でしばしば自分自身を「人の子」と呼んでいます。これは旧約聖書におけるイエスの受肉前のもう一つの出現であり、人の子があらゆる国の人々から崇拝を受けていることを描写しています。これは主イエスご自身を指しているに違いありません。そして、それはイエスが復活後に何度も語ることになる「大宣教命令」の重要な背景です。

今日の朗読にイエスの裁判の引用を含めたのは、これがイエスの正体を公式に証明し、冒涇罪で死刑に処せられたからです。イエスは真実であり、永遠の生涯を通じて真実のみを語りました。神は嘘をつくことができませんが、イエスは決して嘘をつきません。

ユダヤ人裁判の第三段階で、イエスはサンヘドリンの前に連れてこられました。イエスはその時真実を語ると宣誓し、その記録は公式で法的拘束力がありました。大祭司から自分の正体を尋ねられ、イエスは自分が救世主であると主張しました。それからイエスは詩篇 110 章とダニエル書 7 章の両方を引用し、ダビデとダニエルの言葉を組み合わせ、自分が受肉前に二人に現れた時に見た方であるという聖書的主張をしました。これにより、イエスは神の子、つまり父と同等であるという法的主張が確定し、冒瀆罪で告発されました。これらはイエスの神としての主張であり、イエス自身の受肉前の神としての現れに基づいていました。

「ダビデの子」と「人の子」という二つの称号は、イエス自身が常に主張し、イエスの地上での生涯の間、他の人々がイエスを呼ぶときに使用しました。これらの称号は両方とも、イエスが受肉前にダビデとダニエルに現れた際に生じたものです。イザヤへのイエスの出現、およびイザヤ書第 6 章と第 53 章の背景を加えると、旧約聖書におけるイエスの受肉前の出現は、イエスの永遠の神性と神としての存在以前、そして人間として受肉した後も神性を持ち続けることを理解する上で極めて重要であることがわかります。また、新約聖書でイエスの正体を明らかにする称号を理解する上でも重要です。

応用：

旧約聖書は三位一体の教義を明示的には教えていませんが、三位一体の神理解と一致する場面や記述が含まれています。人類の創造物語（「我々に似せて人を造ろう」）、*イエスの受肉前の出現*、および「*主の天使*」に関する節はすべて、三位一体の神観に関係しています。

イエスの生涯の物語は、必然的に、創造以前に存在していた三位一体の現実から始まります。ヨハネ 1 章 1-5 節と旧約聖書におけるイエスの受肉前の出現は、三位一体、特に父の永遠の子、三位一体の第二位格としてのイエスの証しです。イエスの生涯の第 1 段階は、聖書でそれについて語られている内容の量からすると短いものですが、その重要性は途方もなく大きいものです。イエスの生涯と、イエスが創造したすべてのものの意味を理解するためです。

私たちはイエスの神性を信じているため、三位一体を信じています。私たちの主はご自身の神性を信じ、父なる神と聖霊との関係の性質によって三位一体の現実をはっきりと示しました。三位一体は厳密には新約聖書の教義ではありません。それは聖書全体の啓示です。なぜなら、聖書はすべて、父なる神を私たちに明らかにし、ご自身の聖霊を与えてくださった神であり人であるイエスの人格と働きを証言しているからです。

私たちの誰も、三位一体を論理的に理解することはできません。三位一体は反合理的ではなく、超合理的です。なぜなら、三位一体は、私たちの精神的能力を完全に超越しているからです。

三位一体を理解する最良の方法は、イエスの生涯と宣教について学ぶことです。イエスを信じる信仰を通してイエスが私たちに与えてくださった父と聖霊との関係を経験するとき、私たちは自分の頭で完全に理解できる以上のものを経験します。イエスについての個人的な経験的知識が深まれば深まるほど、三位一体の現実に親近感を抱き、偉大なる三位一体が私たちにとってより貴重なものになります。

あなたはこれまでの人生で、三位一体の各位格をどのように経験してきましたか？

このすべてから、三位一体の現実について何を学びましたか？